

名品展「珠玉の仏教美術」

経筒

(伝福岡県出土)

重要文化財  
銅製 鑄造  
総高41.3cm  
平安時代 保延7年(1141)  
当館



線刻部分

平安時代後期、末法思想が広がる中、仏教を深く信仰していた人々は霊地や聖地に経塚を築き、経典を地中に埋納した。経筒はその経典を納めるための容器であり、銅製や陶製、滑石製など、様々な材質で作られた。

本品は経塚造営のメッカの一つ、北部九州で出土したとされる銅製の経筒である。短い円筒を4段積み上げて筒身を作っている。蓋は塔の屋根を模した形で、頂部に相輪を立てる。経筒を塔形につくる例はしばしばあるが、これは釈迦の教えを説いた経典(釈迦の遺骨)に見立て、その舍利を塔に納めるイメージから経筒を塔形に仕立てたのだろう。

この経筒の最大の見どころは、筒身の表面に流麗な筆致で彫られた線刻画である。合掌姿の普賢菩薩、薬王・勇施の二菩薩、持国・多聞の二天、中国風の装いの十羅刹女が表され、彼らは法華経や、法華経を読む人々の守護者であるので、経筒にふさわしい図像として選ばれたのだろう。

筒身の銘文からは、保延7年(1141)に埋納されたものであることがわかる。紀年銘のある普賢十羅刹女の図像としてはわが国最古のもので、美術史的にも大変貴重な出土品である。

中川 あや(当館学芸部教育室長)

展示品の  
みどころ

名品展「珠玉の仏教美術」

行基菩薩行状絵伝

重要文化財  
絹本着色  
各幅 縦165cm 横80.9cm  
鎌倉時代 正和5年(1316)頃  
大阪・家原寺

文暦2年(1235)、生駒・竹林寺の行基廟より、遺骨を納めた舎利容器が発見された。行基(668~749)といえは土木事業や東大寺大仏造営に功を挙げ、民衆を救う姿から文殊の化身と讃えられた僧侶だ。灰燼に帰した南都の復興期にあった当時、先駆者の舎利の存在はどんなに人々の励みとなっただろう。高まった行基への信仰を背景に、彼の生家という家原寺で製作されたのが3幅のこの絵伝である。

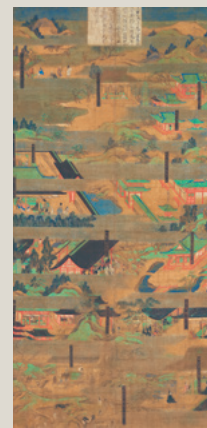
第1幅には行基の祖先とされる漢の初代皇帝・劉邦の物語、第2幅には行基が建立した数々の寺院、第3幅には大仏造営等の事績や件の行基廟が表される。この内容は正和5年(1316)成立の『行基菩薩縁起図絵詞』に基づいており、絵解き用に絵詞とほぼ同年に描かれたものと考えられる。大きな画面を前に絵詞を読み聴かせる絵解きは、絵巻と違い大勢の人が参加でき、民衆に愛された行基にふさわしい。

4~6月の名品展では第1・2幅、特別展「聖地 南山城」では第3幅を展示する。ぜひあわせてご覧いただき、鎌倉時代の人々のまなざしとともに行基の生涯を追想していただきたい。

松井 美樹(当館学芸部研究員)



第3幅



第2幅



第1幅

■開館日時(4月~6月)

■開館時間 / 午前9時30分~午後5時

※毎週土曜日は午後8時まで

※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日 / 毎週月曜日(5月1日)は開館)

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはマイイロIDをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。

※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

※東新館はエレベーター改修工事のため休館し、令和5年(2023)は春の特別展を開催いたしません。

4月から6月は、西新館の名品展「珠玉の仏教美術」などをお楽しみください。

※当館には駐車スペースがございませんので近隣の県営駐車場等(有料)をご利用ください。



[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車